

関西健康科学専門学校
2018年度 自己評価報告

2019年5月1日

学校法人創志学園



関西健康科学専門学校

目 次

1. 学校教育目標
2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画
3. 評価項目の達成及び取組状況
 - (1) 教育理念・目標
 - (2) 学校運営
 - (3) 教育活動
 - (4) 学修成果
 - (5) 学生支援
 - (6) 教育環境
 - (7) 学生の受け入れ募集
 - (8) 財務
 - (9) 法令等の遵守

1. 学校教育目標

本校は、一流の柔道整復師を養成する教育機関として、社会に貢献できる医療人を育成するとともに、日本の産業界で即戦力として活躍できる人材を育成することを教育目標としている。かかる目標を達成するために実務教育を実践できる教授陣を揃えとともに、学校設備を充実・刷新することで、より実践的な教育を実現していくことを目標としている。

2. 本年度の重点的に取り組むことが必要な目標や計画

本年度はこれまで以上に臨床現場での役に立てる教育を更に充実させることを重点的な目標とする。

新カリキュラムが一昨年度より始まったことに伴い、臨床実習の時限が大幅に拡充された。この新カリキュラムにおける臨床実習がいよいよ今年度から開始される。これを機にこれまで以上に実践的な教育を行い、即戦力となる人材の育成に取り組んでいく。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1
①学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているのか)	④ 3 2 1
②学校における職業教育の特色は何か	④ 3 2 1
③社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構造を抱いているか	④ 3 2 1
④学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想等が学生・保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1
⑤教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4 ③ 2 1

a. 課題

創立以来、一貫して職業人の育成を目標に掲げて実践してきたところである。
しかしながら、学生や保護者に伝えきれていないところは反省点である。
保護者会等、様々な手段を使い、この点をクリアしていくことが課題となる。

b. 今後の改善方策

保護者会やその他あらゆるチャンネルを使い改善を行っていきたい。入学年齢が創立時に比べると、若年化しておりその点を踏まえ問題を克服していく。

(2) 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
①目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
②運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1
③運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4 ③ 2 1
④人事、給与に関する規定等は整備されているか	4 ③ 2 1
⑤教務・財務等の組織整備等、意思決定システムは整備されているか	④ 3 2 1
⑥業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④ 3 2 1
⑦教育活動等に関する情報公開が適切に行われているか	④ 3 2 1
⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④ 3 2 1

a. 課題

組織や命令系統は明確化されているも、周知徹底されていないことがある。

b. 今後の改善方策

学内での研修等で課題の克服と徹底を行っていきたい。教員の若年化と一部に社会経験が浅いこともあり、この点において問題点が発生してきている。この原因は学内教育により改善できる余地が十分にあると考えている。

(3) 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1
①教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
②教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修学年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
③学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 ③ 2 1
④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発等が実施されている	4 ③ 2 1
⑤関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④ 3 2 1
⑥関連分野における実践的職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4 ③ 2 1
⑦授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
⑧職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 ③ 2 1
⑨成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
⑩資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的位置づけはあるか	④ 3 2 1
⑪人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る用件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
⑫関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保する等のマネジメントが行われているか	④ 3 2 1
⑬関連分野の先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成等資質向上のための取り組みが行われているか	4 ③ 2 1
⑭職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 ③ 2 1

a. 課題

外部関係者からの評価については早急に取り組む必要がある。また、教育の質の向上のため、教員及び職員の研修制度を年一回実施しているがより一層充実させる必要がある。

b. 今後の改善方策

業務分担を明確にし、偏りのない業務体制を構築することにより、課題となっている学内教育の時間を確保していく。また、学校関係者評価については文部科学省のガイドラインに沿って実施をしていく。

(4) 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1			
①就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
②資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
③退学率の低減が図られているか	④	3	2	1
④卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか	4	③	2	1
⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

a. 課題

就職率、資格取得率ともに満足するレベルには達しているが、退学率については改善が必要である。また、卒業生の社会的評価の把握については満足するレベルにはあらず、今後の課題である。

b. 今後の改善方策

退学の理由は様々であるが、特には進路先不適合がある。入学者の確保は経営課題ではあるが、入学してからの困難を考えれば、説明会等で入学希望者にしっかりとした説明が必要である。また、学生一人一人に対して、より一層丁寧な指導を行っていく。

(5) 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1			
①進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
②学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
④学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1
⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
⑥学生の生活環境への支援は行われているか	④	3	2	1
⑦保護者と適切に連携しているか	4	③	2	1
⑧卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
⑨社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④	3	2	1
⑩高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	④	3	2	1

a. 課題

学生相談はクラス担任を中心に行い、生活や経済的な問題や学生に対する包括的な問題を相談・対応できる専門知識をもつ相談員を配置している。課外活動に対する支援に改善の余地がある。

b. 今後の改善方策

相談室を週に1回開設しているが、利用者数が少ない。相談室の開設日、時間の告知を告知することで、メンタル不調による休退学者を0にしていく。
課外活動に対しては柔道部だけでなく、女子学生の増加に対応できるよう様々な部活動を実施、支援していく。

(6) 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1
①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	④ 3 2 1
②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 ③ 2 1
③防災に対する体制は整備されているか	4 ③ 2 1

a. 課題

〔学内外の実習施設には過不足はないものの、今年度より新しい臨床実習が始まるに伴い、学外での実習体制をより一層充実させなければならない。〕

b. 今後の改善方策

〔学外での実習体制については、既に数カ所の実習施設の確保を終えているが、本校の教育理念等を伝えていく必要がある。これについては各教員が丁寧に伝え、教育体制の充実を図っていきたい。〕

c. 特記事項

〔10月に南海トラフ地震発生を想定し芦屋市防災情報マップを元に避難訓練を実施。〕

(7) 学生の受け入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1
①学生募集活動は、適正に行われているか	④ 3 2 1
②学生募集活動において、教育成果は正確に伝わっているか	④ 3 2 1
③学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1

a. 課題

〔兵庫県唯一の柔道整復師専門学校として、柔道整復師の社会的役割、仕事を伝えきれていない。本校の教育成果をさらに効率的に伝えていく必要がある。〕

b. 今後の改善方策

伝えきれていないのは量と質の双方に問題点があることが考えられる。これらを克服するためには、まず質の向上を目指したい。教職員のプレゼンテーション力の向上は課題である。様々なツールを取り入れることも重要であると思う。

(8) 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1			
①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1
②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
③財務について適正に行われているか	④	3	2	1
④財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

a. 課題

当校を設置する学校法人神戸創志学園において財務基盤は安定しており、問題は無い。財務情報公開についても体制は整備されており、透明性は確保されている。

b. 今後の改善方策

今後もこれまで通りの財務情報の公開を継続していく。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1			
①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
③自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	③	2	1
④自己評価結果を公開しているか	4	3	②	1

a. 課題

〔自己評価結果の公表を HP 等で一般に公表することにより、本校が置かれている状況を広く一般に告知することで、より一層の教育体制等の充実に図っていきたい。〕

b. 今後の改善方策

〔今回の自己評価をもとに次年度において学校関係者評価を実施して、同様に公開をしていく予定である。〕